



「佐々木さんを支援する会」会報

ウブムエ

事務局 〒235-0041 横浜市磯子区栗木 1-22-3 / TEL 045-774-9861
洋光台キリスト教会内（蛭川明男牧師）／●世話人会代表 加藤 誠
●事務局長 播磨 聡（広島キリスト教会 TEL 082-293-8683）

ニャルワンダ語で「ウブムエ」(ubumwe)とは、「一致」「調和」「和」を意味する。

「国境を超える平和のネットワーク」

佐々木 和之

ささき かずゆき

皆さまこんにちは！活動報告のための一時帰国を2日後に控え、このお便りを書いています。今号は、9月末から約1年間の予定で東京外国語大学に留学しているプロテスタント人文社会科学大学（以下、PIASS）の教え子たちが文章を寄稿してくれました。日本語の集中コースを含め、ほぼ毎日授業があるとのことですが、日本での学びと生活から多くのことを吸収したいと意欲的な留学生を送っています。彼らが日本で豊かな学びと体験を積むことができますようにお祈りください。

私は10月20日から活動報告や講演等のため、約5週間日本に滞在します。今年は、関西を皮切りに、首都圏・関東地方、福岡、沖縄、鹿児島、愛知、東北地方を巡ります。11月5日から7日の三日間、平和学習のために留学生たちを沖縄に連れていく予定も入っています。一人でも多くの皆さまと、いずれかの場所でお会いできるように願っています。

★ 国際化が進む平和紛争研究学科

先週末、PIASSの新年度が始まりました。通常は全学年一緒に新年度が始まるのですが、今年は様々な事情があり、新入生のみ約1ヶ月遅れのスタートです。現在も募集が続いているので最終的

な入学者数は分かりませんが、目標の25名を達成することができそうです。そのうち7名はルワンダ以外からの留学生です。これまでのブルンジ、コンゴ民主共和国、南スーダン、タンザニアに加え、ウガンダ、ナイジェリア、マラウイからも留学生を受け入れることが決まっており、ますます国際色が豊かになります。

私はPIASSで働き始めた当初から、紛争の要因が複雑に絡み合っているアフリカ大湖地域の国々において、平和のために献身的に働く新世代のリーダーを育成し、彼らのネットワークを構築することを目指しています。そのために、ブルンジとコンゴ民主共和国から留学生を初めて受け入れたのが今から5年前のことでした。当初は支給できる奨学金の確保が容易でないことから、対象国をブルンジ、コンゴ民主共和国、ウガンダ、タンザニアに限るつもりでいました。しかし、南スーダンなど深刻な紛争がある国からも受け入れたらどうか、という学長からの勧めもあり、少しずつ留学生の出身国を増やしていくことになりました。

★ 日本とアフリカの架け橋

新年度も5名の日本人留学生を受け入れることが決まっています。そのうちの4名が9月下旬に

ルワンダに到着しました。初めて日本から留学生を受け入れたのは今から5年前。その日本人留学生第1号は、当時東京外国語大学3年生の加藤麗さんでした。加藤さんは卒業後、NHK 鹿児島放送局のディレクターとして活躍されています。

その後も毎年途切れることなく、日本から留学希望者があり、その数は増加傾向にあります。私が学生の頃は、海外、それもアフリカの大学に留学するなど考えもしなかっただけに、ルワンダで日本人の若者たちとこれだけ関わることになるなど全く想像していませんでした。彼らの留学の動機は様々ですが、キーワードで言うと「アフリカ」という地域に興味を持つ人たちが、「紛争」、「平和」、「和解」といったテーマに興味を持つ人たち、あるいはその両方に興味を持つ人たちです。

最近留学してくる日本人の学生たちを見ていて嬉しいことは、ルワンダ語を熱心に学び、積極的にアフリカの学生たちと関わろうとする若者たちが増えたことです。最初の数年は、日本人学生は交友関係に関しては控えめで、仲間というよりお客さんとして見られていましたが、ここ数年、生活環境が決して良いとは言えない学生寮に入り、アフリカの学生たちと寝食を共にする日本人学生も増えてきました。特に、昨年度は5名の日本人留学生のうち2名が留學生活の後半は寮に入りました。2名ともクリスチャンであったことから、平和紛争研究学科の学生たちが行っている祈りの集会にも積極的に参加し、こちらの学生たちと「祈りの友」として強い絆で結ばれました。他の日本人学生たちも授業の外で他の学生たちと音楽活動を一緒にしたり、ルワンダ語を教えてもらうなど、とても良い関係を築いていました。

言葉や文化の違いをものともせず、心から「大切な友だち」と呼べる関係が日本とアフリカの若者たちの間で生まれてきていることを見て、私は少し羨ましい気持ちで彼らを眺めながら、新しい時代が始まっているのを感じるのです。PIASS で1年間学んだ学生たち



＜到着したばかりの日本人留学生＞

が、社会人になってもここで出会った友人たちと関係を持続することができたら、どんなに素晴らしいでしょう。

既にお伝えしているように、アフリカの学生たちの多くは、未だに深刻な紛争が続く国々の若者たちです。ここルワンダも、真の平和が定着するためには、まだまだ時間が必要です。日本の元留学生たちが、アフリカの卒業生たちが始めていく社会変革や平和構築の取り組みを具体的に応援することになる日がやがて来るかもしれません。また、日本の元留学生たちが将来、アフリカの卒業生たちから助けってもらったり励ましてもらったりすることもあるでしょう。PIASS の働きを通し、「平和のために働きたい」との願いと祈りで繋がった人々の輪が、これからもアフリカの国々の間で、また、日本とアフリカの間で広がっていくようにお祈りください。

★ 卒業生と共に進める平和構築

平和紛争研究学科が創設されてから6年目になりますが、卒業生たちの中には、NGOに就職した者たち、NGOを立ち上げた者たち、大学に残って私の同僚になった者たちが、それぞれの場で平和と社会正義の実現のために汗を流しています。私がコーディネーターを務める大学所属の「平和と開発研究・行動センター」(以下、センター)には現在2名の卒業生が働いています。

第一期卒業生のルワンダ人、セルジ・ムブニさ

ん(2015年来日)は、前号で佐々木恵が報告させていただいた、虐殺生存被害者の女性たちと虐殺加害者を配偶者に持つ女性たちが結成した協働グループ「ウムチョ・ニャンザ」(「ニャンザの光」)への支援活動に献身的に取り組んでいます。切り花の生産やクラフト作り等で女性たちの現金収入を向上させることが活動の大きな目的ですが、同時に彼女たちが続ける癒しと和解の歩みが広がっていくように、セルジさんは、彼女たちの子ども達である中高生の間の関係づくりにも取り組んでいます。

昨年卒業後にセンターの職員になったブルンジ人のフロリアン・ニュンゲコさん(2017年来日)は、まだ社会人一年目ながら、学生、教員、NGO職員を対象とした「批判的思考」トレーニングの責任者として、また「非暴力コミュニケーション」トレーニングの講師として活躍しています。

また今年から、卒業後に奨学金を獲得し、海外の大学の修士課程で平和構築、開発、ガバナンスといったテーマについて学びを深める学生たちが増える傾向にあります。8月末には、コンゴ人のデイビッド・ニリンガボさんが、世界的に著名なアメリカのイースタン・メノナイト大学で紛争変

容・平和構築修士コースの学びを始めました。さらに9月末には、ブルンジ人のリエス・ホレンベレさんが、アフリカ大湖地域研究のメッカとも言われるベルギーのアントワープ大学で、アフリカにおける開発とガバナンスに関する修士コースに入学しました。二人とも学部時代とは比較にならない大量の文献を読むことが求められ、相当苦勞しているようですが、先日、張り切って学びを続けているとの報告が届きました。

私は、それぞれの場で研鑽を積んだ卒業たちとの協働がさらに広がっていくようにと祈りつつ、期待に胸を膨らませています。



＜「平和のための演劇」特別講義にて＞

ルワンダ PIASS平和紛争研究学科より 日本に留学生が到着 ！

2018年9月23日、佐々木さんのもとで学ぶPIASSの学生2名が、約1年間、東京外国語大学で学ぶ留学生として来日し、学びが始まっています。クラウドファンディングで寄せられた募金が、渡航費・日本での滞在費の一部となりました。皆さまのご協力を感謝いたします。民族対立、ジェノサイドの中で、非暴力、草の根の平和と和解のプロセスを学んだ彼らが、さらに日本で学びを深める機会となるために、祈り覚えてまいりましょう。彼らの自己紹介と留学への思いをご紹介します。

ロドリグ・イチシャーツェ

「ブルンジから
ルワンダ、そして日本へ」

ルワンダで交流した高校生達の

学園祭に招かれて>

私はブルンジの首都ブジュンブラの牧師の家庭で育ちました。私の父は牧師であるとともに、ブルンジの「平和創造のための新機軸」

(Innovations for Peacemaking Burundi) という NGO の創設者です。高校卒業後、私はブルンジ国立大学で心理学を学ぶことが決まっていました。しかし、佐々木先生の知り合いのあるブルンジ人の平和活動家から PIASS の平和紛争研究学科のことを紹介され、それまでの予定を変更してルワンダに行くことを決意しました。私はそのとき既に、6 カ月ほど父の NGO や他の NGO が実施する平和活動にボランティアとして関わっていましたので、もっと専門的に平和構築についても学びたいと思ったのです。とはいえ、PIASS がどんな大学なのか詳しく知りませんでしたし、隣国と言っても母国を離れてルワンダに来ることに不安がありました。その私を「心配するな。平和構築についてしっかり学ぶ良いチャンスじゃないか」と父が背中を押してくれたのでした。

PIASS の平和紛争研究学科で学んだ大切なことの一つは、平和を創るためには個人レベルのたゆまぬ努力が必要であるということです。私は平和を単に目に見える戦争が無いというだけでなく、構造的なものも含め、あらゆる暴力が克服された状況であると理解しています。それでは私は、日常生活の中でどれだけ真剣に暴力を減らすことに努めているのでしょうか？以前私は、政府なり他の人たちが暴力の源泉であり、彼らが暴力を行使しなくなることが平和のために必要なのだと考えていました。しかし今は、私自身がまず足元から平和のために何ができるのか考え、行動していることが大切であると学びました。

第二に、個人的な努力はもちろんとても重要ですが、平和の実現のためには人々の協働が不可欠であるということです。そこで私は、PIASS ピースクラブと「ブルンジの平和創造のための新機軸」に加わり、活動するようになりました。これらは共に平和を創り出すために設立された団体です。共に力を合わせることによって、私たちはより大きなことを成し遂げることができるのです。

第三に、私たちの社会を構成する一つ一つの制度や組織が平和的なものにならないということ。構造的あるいは文化的な暴力を克服していくためには、私たちの家族、学校、病院、政府といったものがより愛に満ち、透明性を高め、公正なものにならないと成りません。

大学での学び以外でも多くのものを得てきました。その一つは、PIASS で異なる国々から集

まってきた若者たちと出会い、私自身が少しずつ多様性を受け入れられるようになったことです。PIASSの学生たちは多国籍です。言葉や文化の異なる人々と一緒に生活するのは、私にとって初めての経験でした。最初は少し戸惑うこともありましたが、今では私たちの中にある多様性を楽しんでいます。

このことに関して一つの例をお話ししましょう。デイビッドと私は出身国ばかりでなく所属するキリスト教の教派も異なっていました。彼はコンゴ人で私はブルンジ人。彼はペンテコステ系の教会の信徒ですが、私は幼いころからフレンド派の教会に通って来ました。私とデイビッドは平和紛争研究学科の学生たちの祈り会のリーダーでした。そこには、ブルンジ人、コンゴ人、ルワンダ人、南スーダン人、そして日本人の学生たちが集っていました。しかし、初めの頃、私とデイビッドとは祈り会の持ち方について意見が大きく異なりました。デイビッドや他のコンゴ人の学生たちは、祈りと断食に重点を置きたいと言いました。私は、聖書の学びと神様の言葉を分かちあうことに重きを置きたいと主張しました。最初はこの問題を巡って両者の間に衝突が生じることもありましたが、次第に私たちはお互いの強調点を調和させることができるようになりました。

私たちは、このように共に学び、生活しながら少しずつお互いに持っている偏見から自由になりました。デイビッドと出会う前、私は全てのコンゴ人がおしゃべりだと思っていました。しかし、彼は物静かで思慮深く、私のコンゴ人に対する決めつけが間違いであることを示してくれました。私はルワンダ人に対しても偏見を持っていました。多くのブルンジ人同様、私はルワンダ人が信用できない人たちだと思いこんでいたのです。しかし今はそれが間違いであることを知っています。日本での留学期間中、特に三つのことを成し遂げたいと願っています。まず第一は、日本の文化、歴史、言語を学ぶことです。第二は、日本の皆さまがどのように平和を築いてこられたのか、また、今もそのためにどのように努力しておられるのかについて学ぶことです。私の祖国ブルンジでは紛争が長く続き、数十万の人々が難民として近隣諸国に流出しています。暴力の連鎖を平和的に断ち切るため何をすべきかについて、さらに学びを深めたいです。第三は、日本が経済的にどのように発展してきたのかについて学ぶことです。

最後になりましたが、私とシュクルさんが日本に来られるように必要なお金を献げてくださいましたお一人お一人に感謝いたします。1年間の留學生活から多くのことを得ることができるようにベストを尽くします。

ムレカテテ シュクル

「日本留学という夢の実現」

私はムレカテテ・シュクルと申します。プロテスタント人文社会科学大学 (PIASS) 平和紛争研究学科の3年生です。私の家族は母と弟の2人だけです。父は弟と私が幼い頃に亡くなりました。父がいないことで、私たちの家族は経済的にも厳しい生活を強いられてきました。時には学校

に必要な学用品を定められた期日までに準備することができず、学校に行けない時期が何度かありました。しかし、感謝なことに私はトップの成績で高校を卒業することができました。高校卒業後は、将来弁護士になるために法学部のある大学に進学できればと考えていました。しかし、「こ



ここでぜひ学びたい」と思えるような大学が見つかりませんでした。そんな時、私の高校の校長先生が、PIASSの平和紛争研究学科に奨学金制度があることを教えて下さいました。その方は、以前日本の大学で英語を教えていたこともあるアメリカ人の女性宣教師で、佐々木先生の知り合いでした。早速佐々木先生に連絡を取り、私が住んでいた町からバスを乗り継いでPIASSを訪ね、ルワンダ人、ブルンジ人、コンゴ人の学生たちから直接話を聞きました。共同生活しながら平和構築について学び、将来、自分たちの国をより平和にしたいと熱く語る彼らから、私は大きな刺激を受けました。その後、校長先生の勧めもあり、PIASS入学を決意しました。

PIASSに入学してからこれまでの間、私はルワンダ社会のみならず私自身の日常生活にとってとても有益な多くのことを学んできました。その中でも最も重要なことは、和解について学んだことです。私は長い間、和解という言葉に強い抵抗を覚えてきました。「ジェノサイドが起きたルワンダで和解？そんなことは不可能に決まっている」と思っていたのです。しかし、そのような私の考えは、PIASSで受けた和解の授業によって完璧に覆されました。授業の中で、草の根で和解の歩み続けるジェノサイドの被害者1名と加害者2名と対話をする機会がありました。私たち学生は、その人々がどのように

和解への歩みを始め、今はどんな関係性を持ち、これからどうしたいと思っているのかなど、様々な質問を彼らにぶつけました。そんな中で、想像もしていなかった変化が私の心の中で生まれました。加害者たちを自分と同じ人間として見るができるようになったのです。私はそれまで加害者たちに対して強い嫌悪感を持ち、彼らと話をしたことなど一度もありませんでした。しかし、その授業で初めて、虐殺に参加したと告白した人と握手をすることもできました。この授業に刺激を受け、私は和解という問題に強い興味を持ち、人々の和解を助ける様々な活動に関わりたいたいの思いから、その後約6ヶ月間、ニャンザで癒しと和解の歩み続ける女性グループ「ウムチョ・ニャンザ」の活動支援に関わりました。

日本で約1年間の留学生生活をスタートする今、夢のような気持ちでいます。PIASSで日本人の留学生たちと友人になってから、私はいつも日本に行ってみたいと思っていたからです。彼らは皆真面目で、親切で、いつも努力を怠らない人たちでした。彼らから日本の話をたくさん聞きましたし、日本語も少し習いました。そして、日本が大好きになったのです。

東京外国語大学では、国際関係論や地域研究の分野で新たな知識を身に着けたいと思っています。また、日本語や日本文化もぜひ学びたいです。日本で英語が得意でない人たちと日本語で話せるくらいにはなりたいです。そして、ルワンダと日本がテクノロジー、教育制度、生活習慣などの面でどのように異なっているのかについて知りたいと思っています。

最後になりましたが、私の日本留学のためにご支援下さった皆さまに感謝申し上げます。皆さまの上に神様の祝福が豊かにありますようにお祈りいたします。日本で皆さまとお会いすることを心から願っています。



佐々木さんを支援する会主催

第3回 ルワンダ 和解の現場・訪問ツアーのご案内

「佐々木さんを支援する会」の皆様。

いつもルワンダの和解の働きのために、ご支援をいただきありがとうございます。

支援する会では、2013年、2016年にルワンダ訪問ツアーを行い、虐殺の現場を訪ね、その悲劇を心に刻みつつ、佐々木さんの活動現場を訪問し、和解と癒しのプロセスを見てまいりました。

3回目となる今回は、前回の訪問地の今を知るとともに、PIASSの学生や教職員の方たちとの交流なども行い、和解の働きを担う人たちの育つ場を訪ねる機会としたいと願っています。

またとない企画です。ぜひ、ご参加ください。

ツアー日時 2019年 9月2日(月)～12日(木)

飛行機便の都合により、日程が前後する場合があります。あらかじめご了解ください。

訪問地 ルワンダ共和国

参加費用 30万円 (学生には支援する会より5万円の補助を行います。)

※フライト料金やUSドルのレートによって、増減することがあります。

募集人数 12名

- 出発日に成田空港の会議室に集合し、事前オリエンテーションを行います。
- 現地での主な訪問先：キガリ虐殺資料館・記念施設、キレヘ郡での和解プログラム（償いの家づくり、養豚協働組合、クラフト製作グループ）、ピース・インターナショナル・スクール、PIASS（学生たち、教職員との交流）、ニャンザ女性協働プロジェクト 等
- 参加費用30万円には、成田～キガリ往復航空券、現地移動費、滞在費、食費、ガイド費用、ビザ取得費用などが含まれます。ご自宅から成田までと成田からご自宅までの交通費や、事前に必要となる予防接種代金、パスポート取得代金は含まれません。
- 参加者の決定は、申込み順、動機、健康面などを考慮し、事務局で決定させていただきます。参加決定のお知らせとあわせて旅行準備の詳細を、後日お届けいたします。

●申込み締め切り 2019年 5月2日(木)

申込先にご連絡下さい。所定の申込み用紙をお送りします。郵便、FAXにてお申し込みください。

申込み先 洋光台キリスト教会 佐々木さんを支援する会事務局

〒235-0041 横浜市磯子区栗木 1-22-3 TEL 045(774)9861/FAX 045(774)9859

事務局からのお知らせ

- 佐々木和之さんの今年の帰国は、10月20日～11月27日です。各地でおこなわれる報告集会へ、ぜひ、ご参加ください。入場無料。
- 2017年3月にNHK BS-1で放映された佐々木和之さんのドキュメンタリー番組「明日世界が終わるとしても」DVD貸出中。事務局の洋光台キリスト教会（蛭川明男牧師）TEL 045-774-9861にお申込み下さい。

帰国報告集会 2018のご案内

報告集会 in 大阪

2018年10月28日（日） 16:00-18:00 会場：大阪バプテスト教会
大阪市天王寺区茶臼山町1-17 電話 06-6771-3865 牧師 下川俊也

報告集会 in 名古屋

2018年11月10日（土） 14:00-16:00 会場：東山キリスト教会
名古屋市千種区穂波町2-50 電話 052-762-8363 牧師 鈴木直哉

支援会主催 報告集会 in 東京

2018年11月18日（日） 16:30-18:30 会場：常盤台バプテスト教会
東京都板橋区常盤台2-3-3 電話 03-3960-0449 牧師 友納靖史

報告集会 in 岩手（東北地方連合の集会の中でおこないます）

2018年11月23-24日（金-土）

第3回 ルワンダ 和解の現場・訪問ツアー

佐々木さんを支援する会主催「第3回 ルワンダ 和解の現場・訪問ツアー」を2019年9月におこないます。7ページにツアーの紹介をしています。今からご予約ください。ぜひ、関心のある方にご紹介ください。

- 事務作業を簡素化するため、すべての支援者に一律に「振替用紙」を同封させていただいています。請求ではありませんのでご了承ください。必要な方はご利用ください。

●郵便振替口座 00250-0-112907 佐々木さんを支援する会●

- 佐々木さんを支援する会HP（ホームページ）

<http://rwanda-wakai.net/>

佐々木さんの活動報告、写真館、等。HPから入会手続きも可能です。佐々木和之さん、恵さんのブログも適時更新しています。

- 世話人会 加藤 誠（大井教会牧師）、中條智子（長住教会牧師）、播磨 聡（広島教会牧師）、蛭川明男（洋光台教会牧師）、米本裕見子（日本バプテスト女性連合幹事）